

平成19年10月15日

駒宮 幸男 殿

科学技術・学術審議会学術分科会  
科学研究費補助金審査部会  
理工系委員会主査 家 泰 弘

科学研究費補助金「特定領域研究」の中間評価結果について

研究領域名：「ヒッグス粒子と超対称性の発見が切り拓く21世紀の素粒子物理学」

平成19年9月19日に行われました科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会理工系委員会における中間評価の結果、あなたが領域代表者である上記研究領域について以下のとおり評価されました。

なお、中間評価に係る意見の概要については、12月中に文部科学省から公表される予定であることを申し添えます。

評価結果：A（現行のまま推進すればよい）

また、中間評価に当たり、別紙のような意見がありましたのでお知らせします。  
今後の研究の発展を期待しております。

評価結果の補足情報については、文部科学省の学術調査官から得ることができますので、希望者は以下の担当学術調査官に問合せください。照会に当たっては電話番号を付記願います。

ただし、担当学術調査官への照会は平成19年12月31日までとし、それ以降は文部科学省研究振興局学術研究助成課へ照会願います。

<学術調査官の役割>

学術に関する事項についての調査、指導及び助言に当たる大学等の研究者（文部科学省組織規則第53条、第62条）。科学研究費補助金の審査・評価に当たる審査会の議事運営、応募者からの相談への対応、審査結果に係る補足情報の提供等を行う。

本件担当 文部科学省研究振興局学術研究助成課科学研究費第二係

TEL：03-5253-4111（内線4087,4316） FAX：03-6734-4093 E-mail：gakjosei@mext.go.jp

学術調査官 酒見 泰寛（東北大学・サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター・教授）

E-mail: sakemi@cyric.tohoku.ac.jp

領域代表者：駒宮 幸男（東京大学・大学院理学系研究科・教授）

（中間評価に係る意見）

世界最高エネルギーの加速器LHCを用いた実験ATLASと世界最高輝度ミュオンビームを用いた実験MEGを推進し、ヒッグス粒子の発見・超対称性の発見という明確な目的のもとに、実験装置開発・解析手法の確立・理論研究の進展が着実に進められている。ATLASでは、ミュオントリガーチェンバー、シリコン飛跡検出器等、重要な測定器開発を担当し順調に建設が進展している。また実験開始後速やかに物理結果をだすため、グリッド計算システムを用いた物理解析センターを設置し、軽いヒッグス粒子や超対称粒子を探索するための解析手法を実験に先立ち確立し、国際的にも高い評価が得られていると判断される。MEGでは、液体キセノンガンマ線検出器をはじめ、新しい測定器の開発・製作・実証を着実に進めており、実験の提案から測定器建設にいたるまでグループの中軸として国際協同実験を牽引していると評価される。LHCでは4重極磁石の事故による実験開始の遅れはあるものの、各研究項目の成果を結集し、研究期間内にヒッグス粒子や超対称性の兆候を捕らえられることが期待される。博士や修士の若手育成も進んでおり、国際共同研究におけるグループの存在感も十分と判断した。以上により、現行のまま進行すればよいと判断した。理論グループとの連携も有効に進められており、研究費の使用も妥当である。なお、大規模国際協同実験の中で、外国メンバーに先行してデータ解析を行う体制をさらに強化していくことを期待する。

※評価基準等については、別添「科学研究費補助金における評価に関する規程（抜粋）」を参照すること。